

# 主日礼拝

2024年06月23日  
午前10時30分

**前奏** 「すべての救いの泉よ、  
我らは汝をあがめまつる」(讃24)  
(O.オルソン)

**参集** (報告・紹介・予定)

## 招詞

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」 (エフェソの信徒への手紙 2:14~16)

## 頌栄 27 「父・子・聖霊」

ちち子せいれのひとりの主よ、さかえとち  
からはた一だ主にあれ、と一こしえまで。  
アーメン。

## 交読詩編 126：1~6

司式者：主がシオンの捕われ人を連れ帰られると聞いて  
 会衆：わたしたちは夢を見ている人ようになった。  
 司式者：そのときには、わたしたちの口に笑いが  
 会衆：舌に喜びの歌が満ちるであろう。  
 司式者：そのときには、国々も言うであろう  
 会衆：「主はこの人々に、大きな業を成し遂げられた」と。  
 司式者：主よ、わたしたちのために  
 大きな業を成し遂げてください。  
 会衆：わたしたちは喜び祝うでしょう。  
 司式者：主よ、ネゲブに川の流れを導くかのように  
 会衆：わたしたちの捕われ人を連れ帰ってください。  
 司式者：涙と共に種を蒔く人は  
 会衆：喜びの歌と共に刈り入れる。  
 司式者：種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は  
 束ねた穂を背負い  
 会衆：喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

## 賛美 4-2、5節「世にあるかぎりの」

O for a thousand tongues to sing  
 詞：Charles Wesley, 1707-1788  
 曲：Carl G. Gläser, 1784-1829

2 めぐみのみかみよ、きよきみ名を  
 5 まことのみことばかたりて主は、  
 つたうるわれらをみちびきたまえ。  
 死にたるこころを生かしたまえり。

2 恵みのみ神よ、きよきみ名を  
 伝うるわれらを導きたまえ。  
 5 まことのみことば語りて主は、  
 死にたる心を生かしたまえり。

## 祈祷

## 献金

## 主の祈り

天にまします我らの父よ、  
 ねがわくは み名をあがめさせたまえ。  
 み国を来らせたまえ。  
 みこころの天になるごとく  
 地にもなさせたまえ。  
 我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。  
 我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、  
 我らの罪をもゆるしたまえ。  
 我らをこころみにあわせず、  
 悪より救い出したまえ。  
 国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの  
 なればなり。  
 アーメン。

## 賛美 32「キリエ・エレイソン」

キリエエレイソン キリエエレイソン  
 しゅよあわれみを しゅよあわれみを  
 キリエエレイソン  
 しゅよあわれ - - イミソンを

## 聖書 ヨハネによる福音書 4:27~42 新約(新共同訳) P170

27ちょうどそのとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話をしておられるのに驚いた。しかし、「何か御用ですか」とか、「何をこの人と話しておられるのですか」と言う者はいなかった。28女は、水がめをそこに置いたまま町に行き、人々に言った。29「さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれませぬ。」30人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。

31その間に、弟子たちが「ラビ、食事をどうぞ」と勧めると、32イエスは、「わたしにはあなたがたの知らない食べ物がある」と言われた。33弟子たちは、「だれかが食べ物を持って来たのだろうか」と互いに言った。34イエスは言われた。「わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。35あなたがたは、『刈り入れまでまだ四か月もある』と言っているではないか。わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り入れを待っている。既に、36刈り入れる人は報酬を受け、永遠の命に至る実を集めている。こうして、種を蒔く人も刈る人も、共に喜びなのである。37そこで、『一人が種を蒔き、別の人刈り入れる』ということわざのとおりになる。38あなたがたが自分で労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたがたを遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実にあずかっている。」

39さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。40そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるようにと頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。41そして、更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。42彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」

### 賛美 353 「父・子・聖霊の」

Τριθεῦτος Ἀγίας Θεωρητικῆ  
詞：Metrophanes (Smyrna), 7-910

OLD 22ND  
曲：Este's Psalter, 1563

1 ち ち・子・せ い れ い の ひ と り の か み、  
2 せ い な る み す が た ま ば ゆ く て り、  
3 こ の 世 の し は い し ゃ お ご り た て ど

め ぐ み に か が や く ひ か り を も て  
み つ か い の む れ も た だ ひ れ 伏 す。  
そ の さ か え す ら も や み に す ぎ ず。

わ れ ら の こ こ ろ の や み を て ら し、  
つ み あ る わ れ ら は い か に す べ き。  
地 に あ る わ れ ら は た だ ひ た す ら

主 の ま く や と な し や ど り た ら ま え。  
ゆ る し と あ わ れ み も と む る の み。  
ち ち・子・せ い れ い の か み を た た えん。

- 1 父・子・聖霊の ひとりの神、 2 聖なるみすがた まばゆく照り、  
恵みに輝く 光をもて みつかいの群れも ただひれ伏す。  
われらの心の 闇を照らし、 罪あるわれらは いかによすべき。  
主の幕屋となし 宿りたまえ。 救しとあわれみ 求むるのみ。

- 3 この世の支配者・おごり起てど  
その榮えすらも 闇にすぎず。  
地にあるわれらは ただひたすら  
父・子・聖霊の 神をたたえん。

### 説教 「自分で聞いて信じる」

### 賛美 413 「キリストの腕は」

When Christ was lifted from the earth  
詞：Brian Wren, 1936-

ST. BOTOLPH  
曲：Gordon Slater, 1896-1979

1 キ ト ス の う で ち は て ま で。 3 し っ し ゃ う へ た り か が 関 わ り な く、  
文 化 も 生 ま れ も す べ て 超 え て。 とも 友 と し て まね き、 あ い さ れ る 主。

2 東 西 南 北 ひ と つ と なる。 4 世 代、 民 族 の 壁 を 砕 き、  
キ リ ス ト の あ い し は す べ て む す ぶ。 人 を そ の ま ま に 受 け 入 れ る 主。

5 キ リ ス ト に な ら い 私 た ち も  
違 い を よ る こ び 受 け 入 れ 合 お う。

- 1 キリストの腕は 地のはてまで。 3 思想や隔たり 関わりなく、  
文化も生まれも すべて超えて。 友として招き、愛される主。
- 2 東西南北 ひとつとなる。 4 世代、民族の 壁を砕き、  
キリストの愛は すべてむすぶ。 人をそのままに 受け入れる主。
- 5 キリストにならい 私たちも  
違いをよるこび 受け入れ合おう。

### 派遣

- 司式者 主は言われます。  
「わたしは誰を遣わすべきか。」  
会衆 わたしがここにおります。  
わたしを遣わして下さい。

### 祝祷

### アーメン

アーメン アーメンアーメン

### 後奏 「喜びの歌」 (D.ウッド)

- 司式 塩冶 みはる  
説教 向井 希夫牧師  
奏楽 福原 之織

※お立ちになるのが困難な方は、座ったままで礼拝をお守り下さい。  
※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。